

2 ロジックモデル (抜粋)

ロジックモデルは、まちづくりの重点戦略の実現に向けて、具体的な事業を実施することにより、各戦略の柱が成果を生み出していくプロセスを見える化したものです。

戦略 1 若い世代定住プロジェクト

戦略の柱	目標実現に向けた取組	事業	短期成果(事業の成果)	中期成果(取組の成果)	長期成果(戦略の柱の成果)	
1 ゆとりある暮らしを感じる	(1)若い世代が魅力を感じるゆとりある住環境の形成	ゆとりある住環境整備事業	ゆとりある住宅などを誘導するための都市計画施策を検討・実施する。	若い世代が魅力を感じるゆとりある住環境が整う。	身近にみどりや公園など自然と触れ合える住環境が整う。	市民の暮らしの満足度が高まり、市に住みやすさを感じる若い世代が増える。 ⇒定住人口が維持され、持続可能なまちになる。
		公園施設環境整備事業	都市公園長寿命化計画に位置つけた公園施設の修繕及び更新を行う。	公園施設の安全性が向上する。		
		都市公園等整備事業	居住環境の向上と防災面の強化を図るため、富士地区に防災機能を備えた(仮称)富士公園を整備する。	公園の整備により防災機能に加え、にぎわいや交流の場が整う。		
(2)定住を希望する若い世代の支援	近居推進事業	親世帯と近居・同居を目的に、住宅の新築等を行う若い世代に対して、住宅取得費用等の一部を補助する。	転入時の経済的負担が軽減され、転入者が増加する。	若い世代の移住・定住が促進される。	市民が様々な地域資源に触れる機会が増える。	
	若い世代定住促進支援金事業	大学等の進学時から就職後まで定住する若い世代に対して、教育ローン等の返済額の一部を補助する。	進学時・就職時の経済的負担が軽減され、定住希望者が増える。			
	情報集約・発信支援事業	官民協働による情報発信プラットフォームにより、官民大小を問わずに地域情報等を集約・発信する。	様々な地域資源が集約され、市内外に市の魅力を伝える機会が増える。			
(3)地域資源を活用した魅力ある暮らしの促進	フォトプロジェクト事業	写真をツールとして、地域資源探しや、撮影ツアーなどを通じて、地域資源の発信活動を拡大する。	市民が写真を通して市の魅力を再認識し、魅力の発信者になる。	市民が様々な地域資源に触れる機会が増える。	市民が様々な地域資源に触れる機会が増える。	
	企業誘致推進事業	奨励金制度等を活用した企業誘致活動を展開し、新規企業の立地や既存企業の事業拡張等を誘導する。	市内に進出する企業が増える。			
	雇用労働支援事業	無料職業紹介所における職業紹介や、関係機関との連携による就職活動支援セミナー等を開催する。	求人と求職者のマッチングが図られ、雇用環境が安定する。			
2 働く場を生み出す	(1)工業団地などへの就業支援	異業種・異分野間交流・連携事業	異業種・異分野間の事業者等が集まる機会を創出する。	様々な分野等との交流・連携が進む。	多様な産業構造が構築され、安定した雇用が確保される。	若い世代にとって魅力ある産業や雇用が整い、職住近接が進む。 ⇒ゆとりあるライフスタイルを実現できるまちになる。
		創業支援事業	創業準備のために必要なセミナー、相談窓口、地域の関係機関と連携したネットワークを通じて、創業を支援する。	創業を希望する者が市内で創業する。		
		待機児童対策事業	既存保育所等の受入枠の拡大、既存幼稚園との相互補完体制の構築、保育士の確保など待機児童対策を行う。	保護者がニーズに応じた保育サービスを受けられる。		
(2)子育てに係る経済的負担の軽減	子ども医療費助成事業	子どもの通院・入院・調剤にかかる医療費の一部を助成する。	経済的理由にかかわらず、全ての子どもが受診できる。	子育てに対する経済的不安が軽減される。	働きながら子育てしやすい保育環境が整い、安心して子どもを預けることができる。	
	子育て世代包括支援センター事業	妊娠期から子育て期の保護者等に、関係部署との連携のもと、相談支援など切れ目のない包括的な支援を行う。	保護者のニーズに合わせたサービスを紹介できる。	子育てに対する経済的不安が軽減される。		
	放課後児童健全育成事業	学童保育所において、小学校に就学している子どもで、保護者が労働等により昼間家庭にいない子どもを保育する。	子どもが放課後を安心して安全に過ごすことができる。			
(3)地域での親や子どもたちの居場所づくりや子育て支援のしくみづくり	放課後子ども教室事業	小学校の余裕教室等を活用して、子どもたちが様々な人と知り、体験活動等を行う放課後子ども教室を運営する。	子どもが放課後を安心して安全に過ごすことができる居場所ができる。		親子が家庭以外で地域に安心して相談し、過ごせる場所がある。	子育てや教育に関する不安が軽減され、地域全体で安心して子育てや教育ができる。 ⇒白井で子育てしたいと思う人が増加し、年齢バランスを維持できるまちになる。
	子どもの居場所づくり支援事業	困難を抱える家庭の子どもたちが、安心して過ごせる居場所づくりに取り組む市民団体に活動費の一部を補助する。	子どもの居場所づくりを支援する団体の活動が活発化する。			
	補助教員配置事業	基礎基本の定着に向けて、補助教員を配置し、個別指導の実施やIT指導(複数教員による授業)を実施する。	子ども一人ひとりに目の行き届いた教育が行われる。			
(4)確かな学力、豊かな心、健やかな体など未来を生き抜く力を育む学校教育の推進	地域人材活用事業	地域の実情や特性に応じ、地域の人材と教育力を生かして創意工夫を凝らした特色ある教育を展開する。	子どもの関心・意欲が向上し、地域愛が高まる。	子どもが学力向上などに主体的に取り組む、未来を生き抜く力が育つ。		
	教育の情報化推進事業	児童生徒一人一台の学習用端末、教員が執務を行うための校務用端末等のICT環境の維持管理を行う。	ICTを活用して子どもの学力やICT技能が向上する。			